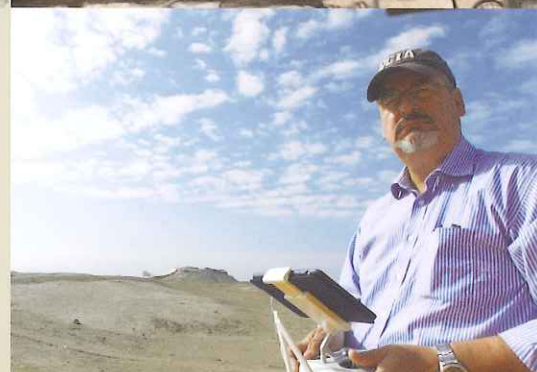
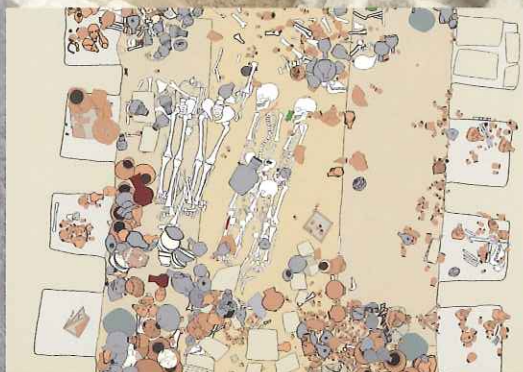


山形大学・国立民族学博物館学術協定締結記念

国際学術
講演会

ナスカとモチェ

この国際学術講演会は、山形大学と国立民族学博物館の学術協定に基づく事業であり、ペルー文化省元副大臣であるルイス・ハイメ・カスティーヨ教授(教皇庁立ペルー・カトリカ大学)を招へいて実施する。先史アンデス文明を代表するナスカ社会とモチェ社会を取り上げる。両者は同時期(紀元前後～6世紀頃)に繁栄した社会である。前者はペルー南海岸に成立し、世界遺産になった地上絵で有名である。一方、後者はペルー北海岸に成立し、土器に描かれた写実的な図像表現、多彩色の壁画、黄金製の装飾品を伴う墓などで有名である。魅力的な土器・壁画・黄金製品が存在によって、モチェ社会は多くの考古学者の関心を集めてきた。これらの研究者の中で特に顕著な研究業績を上げてきたのが、今回日本に招へいするルイス・ハイメ・カスティーヨ教授である。今回の学術講演会では、ナスカとモチェの最近の研究成果を報告するとともに、ドローンや航空レーザー測量などの最新の研究手法を用いた現地調査についても紹介する。



2018年2月17日[土] 14:00～16:00

開催場所 山形大学人文社会科学部1号館 3階 301教室

◎一般公開(参加無料/申し込み不要/定員200名[先着順])

◎使用言語:日本語、スペイン語(通訳あり)

ごあいさつ 関 雄二(国立民族学博物館)

ルイス・ハイメ・カスティーヨ

〈教皇庁立ペルー・カトリカ大学教授〉

「旧来の諸問題に対する新たな手法:
ヘケテベケ谷のモチェ調査より」

坂井 正人(山形大学教授)

「ナスカの地上絵と最先端技術:
人工衛星・踏査・3Dスキャナー・
航空レーザー測量・ドローン」

○山形駅東口より東方約2キロ○山形駅東口より徒歩約25分○山形駅東口より県庁行きバスで約5分…南高前(山形入口)下車10分○仙台駅より山形行き高速バスで約60分 南高前(山形入口)下車10分 ※山形～仙台間の高速バスは平日80便、土日・祝日66便運行しています。

主催/科学研究費補助金新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」計画研究A03「アンデス比較文明論」(研究代表者:坂井正人)、

科学研究費補助金基盤研究(A)「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」(研究代表者:関雄二)、山形大学人文社会科学部附属ナスカ研究所

共催/山形大学、国立民族学博物館 協力/古代アメリカ学会

お問い合わせ先/山形大学人文社会科学部ナスカ研究推進センター

山形市小白川町一丁目4-12

TEL023-628-4470